



ぼつご50ねん いわさきちひろ こどものみなさまへ あれこれいのち

2024年9月7日(土)～12月1日(日)

主催：ちひろ美術館 協力：ふじのくに地球環境史ミュージアム 後援：絵本学会、(公社)全国学校図書館協議会、(一社)日本国際児童図書評議会、日本児童図書出版協会、信濃毎日新聞社、市民タイムス、a b n長野朝日放送、長野エフエム放送株式会社



グラフィックデザイン：岡崎智弘

野のイメージを描く

いわさきちひろは、バラやチューリップなど、華やかな園芸植物の花々を描く一方で、ささやかに咲く野の花にも目を向け、大切に描いていました。《秋の花と子どもたち》(図1)には、秋の七草として親しまれてきたキキョウやススキ、オミナエシ、カワラナデシコのほか、ワレモコウやリンドウなども登場します。これらの草花は、古くから日本の「野」にあった在来の植物です。野は、植物資源を採集したり、野生の動物の狩猟を行うなど、昔から人の暮らしを支えてきた大切な場所でした。樹木に覆われないように火入れを行い、野を維持していました。企画協力者の鷺谷いづみ氏は、子どもたちのまわりに秋の野が広がるこの作品を、かつて身近にあった野の存在と、人が自然とともに生きている姿を伝えてくれる1点として選びました。「日本では、火入れによる野の維持・利用が廃れ、絶滅が心配される植物や蝶などが多く見られます。ちひろさんの絵から、取り戻すべき『野』のイメージを描くことは、『生物多様性の保全』のためにまずすべきことではないかと思えます。」と語っています。

本展では、生態学の研究者である鷺谷氏の視点を交え、自然と人との共生について、改めて考えます。野を感じさせるちひろの作品を多数紹介し、美術館が建つ安曇野の自然とともに見つめます。

心のふるさと・信州

ちひろにとって信州は特別な地でした。両親のふるさと・松本には、幼いころから幾度となく訪れて、自然のなかで遊びました。戦時中は家族とともに疎開した場所でもあります。戦後、単身上京してからも、両親が移り住んだ松川村をはじめとする安曇野や、小谷などを毎年のように訪れていました。ちひろが草花を描いた絵には、心のふるさとであった信州の豊かな自然が感じられます。

1966年には、信濃町・黒姫高原にアトリエを兼ねた山荘を建てています。ここで描かれた絵本『花の童話集』(図3)、『万葉のうた』や山荘設計時の資料、アルバムなども展示します。

野にあそぶ

本展では、展覧会のディレクターを務める plapalx のインタラクティブ作品も展示します。《あちこちスケッチ》(図5)は、本展のために制作された新作です。白いスクリーンに指で線を描くと、

企画協力 鷺谷いづみ (東京大学名誉教授/生態学、保全生態学)



理学博士。みどりの学術賞、日本生態学会功労賞などを受賞。筑波大学、東京大学、中央大学で生態学・保全生態学の研究と教育に従事した。主な著書は、『にっぽん自然再生紀行』、『さとやま—生物多様性と生態系模様』、『生物多様性入門』(以上岩波書店)など。

生物多様性条約の世界目標は「自然との共生」。遠い昔からのヒトと自然との共生の場であったのに今はほとんどが失われた「野」。絶滅危惧種を含む野の花やワラビに子どもたちが親しむ情景が描かれた貴重な絵を鑑賞し、実物の植物がつくる小さな空間「共生の庭」で実感していただければと思います。ちひろさんの絵の魅力を引き出している紫色は、生態系における植物が動物と共生関係を結ぶために進化させた花や熟した果実の色。赤から青までの濃淡さまざまな紫色を、共生の色として感性と知性で楽しむ展示もできればと思います。



図1 秋の花と子どもたち 1965年



図2 十五夜の月 1965年



図3 ひなげし 『花の童話集』(童心社)より 1969年

虫や鳥、草花など、ちひろの絵のなかの小さな生きものが現れます。横線、波線、丸など、線の形によって現れる生きものが異なるため、描くたびに新たな驚きとよろこびを感じます。plaplaxは本作について、ちひろの「線画の良さ、面白さを感じていただきたい」「現れるのは主にモノクロの生きものたちですが、スペシャルバージョンでカラーの絵ができてきます」と語っています。また、光の水たまりに入ると水の波紋が揺れて広がる《Water Pocket》(図6)も展示します。野に水辺に、小さいきものの一員となってあそんでみてください。

ワークショップなども通して、いろいろな「いのち」となかよく生きるにはどうしたらよいかを楽しく考えます。

「共生の庭」から

美術館の中庭に、昨秋、「共生の庭」が誕生しました。鷺谷氏の発案・協力のもと、ちひろの絵にも登場するワラビや

フキ、ナデシコ、キキョウなど、野の草花を育てています。鷺谷氏からは、「『共生の庭』は、ちひろさんの絵にヒントを得て、ここではじめて提案させていただく試みです。(中略) 遠い目標になってしまった『自然との共生』を現実のものとして身近に感じる小さな空間としてデザインしたものです。」とのことばが寄せられました。

実際の植物の葉や花を見ると、ちひろがそれぞれの花のイメージやフォルムを、実によく把握して描き出していることがわかります。小さな「共生の庭」から、安曇野の自然や未来に思いを広げて頂けると幸いです。(安倉恵美子)

*「共生の庭」のようすは、今回の「風」で紹介しています。



図4 ちひろ美術館・東京 展示風景 2024年



図5 plaplax あちこちスケッチ 2024年



図6 plaplax Water Pocket 2014年

ちひろ美術館コレクション 野のいのち

2024年9月7日(土)～12月1日(日)

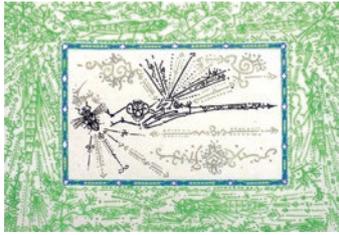
主催：ちひろ美術館

「ぼつご50ねん こどものみなさまへあれこれいのち」にちなみ、ちひろ美術館コレクションのなかから世界各国の画家が身近な野の生きものたちのいのちを描いた作品を展示します。

『虫のわらべうた』

瀬川康男が描く『虫のわらべうた』は、日本各地から虫が登場する14のわらべうたを集めた絵本。トンボやホタル、ミズスマシ、コオロギなどの虫が登場します。

トンボのわらべうたの場面は、中央の成虫を囲む外側にヤゴ（トンボの幼虫）やさかな、水草が細かく描き込まれ、トンボの世界が広がります。コオロギの場面では、スズムシやキリギリスなど、コオロギと同じ秋の虫が隠れています。画家はこれらの絵を描くため、幾度も虫や



瀬川康男（日本）『虫のわらべうた』（福音館書店）より 1986年

植物をデッサンし、観察を続けました。苦心してつかんだという線や模様で美しく縁取られた虫たちの姿には、思わず目をうばわれます。

『めぐる月日に』

フランスのエリック・バトゥーによる『めぐる月日に』は、1月から12月までの四季折々の情景と生きものたちの営みとを重ね、詩のように短い文と絵で綴っ

た絵本です。「10月に、えさをたくわえる……」という文にそえられた作品は、秋の日差しが照らす草原とふたりの人、せわしく冬支度をするリスが描かれています。俳句のようなシンプルな絵からは、さまざまな物語を想像することができそうです。バトゥーの巧みな色づかいをお楽しみください。（矢野ゆう子）



エリック・バトゥー（フランス）『めぐる月日に』（講談社）より 2002年

● 活動報告

2024年7月26日(金)・27日(土) 塩瀬隆之氏による中学生ボランティア研修

松川村立松川中学校の中学生ボランティアによる安曇野ちひろ美術館での活動は2002年から始まりました。23年目を迎える今年は、展覧会「みんな なかまよ」展に合わせて、平和のためのワークショップに取り組みました。新型コロナウイルスの影響で、活動が制限されましたが、ようやく館内でお客さまと関わる対面での活動が再開されます。本展の企画協力者である塩瀬隆之氏（京都大学准教授／システム工学、インクルーシブデザイン）がワークショップのプログラムをつくり、中学生を対象にレクチャーとワークショップの事前研修を行いました。そのようすをご紹介します。



一日目は、みんなで塩瀬氏の解説を聴きながら展覧会を見て回りました。館内には塩瀬氏が考えた30個ほどの「問い」が各所にちりばめられています。展示室の前の大きなパネルには「へいわのはじまりはひとりから？ふたりから？」という問いがあります。塩瀬氏からの問いかけに、中学生はそれぞれに考え始めます。「平和は何人から始まってもしると思う」という意見を持つ1年生

もいました。多目的ギャラリーでは、来館者が参加できるワークショップのコーナーを設置しています。「へいわをあなたのことばでいかにえと？」という問いかけに対し、考えをふせんに書いて窓ガラスに貼ってもらうプログラムもそのひとつです。中学生からは「それぞれ違う意見があり、より深く考えることができた」という声があがりました。

二日目は松川中学校を会場に、前半ではオンラインのチャットツールを活用しながらスライドを交えたレクチャーを受講し、後半ではワークショップの実践を通して指導を受けました。レクチャーは、「探究」についての問いかけから始まりました。答えがわからない課題に対して、まずは取り組んでみる、とことん答えや考えを集めてみる、そしてとことん続けてみるのが大切だと塩瀬氏は事例を交えながら伝えます。瞳を輝かせて聴き入る中学生に次のように続けました。「平和についての問いをたくさんの人と教えてください。僕が一番気に入っているのは、“へいわとはれのひどっちが あたたかい？”という問いです。美術館のどこにあるか探してみてください。みんなも、来館された方に自分の気になる問いについて是非、話をしてみてください。」

ワークショップのプログラムは学校の授業になぞらえて、【書方】【体育】【美術】の3種類が用意されました。【書方】では、紙に2種類の「平和」という字を書きます。ひとつは「平和な書き

方」で、もうひとつは「平和じゃない書き方」で書きます。丁寧に、はっきりと、バランスを考えて書かれた「平和」と、とぎれとぎれに、弱々しく、乱雑に書かれた「平和」が並び、中学生たちの「平和」のイメージが現れました。

【体育】では、チームワークで画用紙に「平和」と書きます。3人が画用紙の端を持ち、その内のひとりがことばで指示を出します。それに従い、別のひとりがクレヨンで画用紙に「平和」と書くという内容です。2回目は難易度を上げて、指示係以外は目をつむって取り組みます。どのグループも最初は戸惑っていましたが、自分の役割とお互いの間合いを意識しながら力を合わせて、ゆっくりと「平和」を書きあげました。【美術】では、ちひろが描いた絵本『おにたのぼうし』（ポプラ社）を題材にします。おにたの子の「おにた」が家の梁に腰かけている場面を使い、もし家のなかでおにたの子に会ったらどうする？どこからなんて声をかける？と問いかけます。おにたのそばに自分の姿を描く中学生たちも多くいました。研修の最後に、「平和に正解はあるのですか？」という中学生からの問いかけに、塩瀬氏は「難しいけれど、正解があるとすれば、今回の展覧会のタイトルである『みんな なかまよ』と言いたいですね」と答えられました。研修を終えて、「たくさん人と話して楽しいワークショップにしたい」と、8月中旬に開催するボランティア活動に意欲を高める中学生の姿が見られました。（原島 恵）

ひとこと
ふたこと
みこと



4月11日(木)

初めてこの美術館を訪れました。いわさきちひろさんのことばや絵が温かくて幸せな気持ちです。館内が木の匂いに包まれていて、人の足音だけが聞こえる本当に美しい空間だと思いました。時間の流れがゆっくりしていて何時間でもここに居たいと思えます。

5月6日(月)

雨でたいくつ緑もくすんで……ちひろさんの色で雨やどり。気持ちがあぼわんと色づいた。ありがとう。

5月25日(土)

大学の友達を地元松川村にご招待しました！久しぶりに来たちひろ美術館。たのしいです！

6月9日(日)

ちひろさんの平和への思い、私たちの平和への思いが、どうか届き

ますように願います。一番つらい思いをするのは子どもたちなのですから……。

6月17日(月)

子どものころ、淡くすきとおるようなちひろさんの絵が大好きで、でも、すこしこわくて……その理由が今日ここに来て、分かった気がします。『戦火のなかの子どもたち』、幼いころはなんとなく不気味でただこわかっただけだったけれど、大人になった今、胸にドンと来るものがあります。たくさんあったちひろさんの絵本は、13年前の津波で全部なくなってしまいました。また少しずつそろえようかな。ちひろさんの絵本を読み聞かせていた娘は、今では二児の母、私はばあばになりました。(京)

7月21日(日)

学校での平和学習よりも、この絵本の方が平和に近いと思いました。いろいろな表情を通して、その人たちの気持ちが伝わりました。大阪からココに旅行できて、一番すごい場所でした！

7月21日(日)

ちひろさんの子どもの絵をいつから見ていたでしょう。でもちひろさんの生き方や願いもなにも知らず手に取っていました。へいわってどんなこと？それぞれのへいわをさぐりながら、わかり合いながら、もがきます。(Fumie)

7月25日(木)

世界中の人々が、家族に愛され、共に食事をし、共に眠り、安心して毎日を過ごせる日が来るよう、私にできることはないか考えているところです。

美術館
日記

6月11日(火) ☔ ☁

入館証のデザインが新しくなった。旧デザインのものを使い切り、6月ごろより新デザインの配布をスタート。ちひろの線画3種があしらわれ、色違いもある。色は日替わりなので、どの色、デザインがもらえるかはお楽しみ。入館証を持参すると次回入館料が500円引きになる特典も。

7月15日(月) ☁

開催中の「みんな なかまよ」展のワークショップについて、受付でうれしいお声がけをいただいた。『おにたのぼうし』で、家の梁に腰かけてこちらを見ている鬼の子・おにたの絵に「なかよくなれるかな？／なんて こえをかけようかな？」と問いが書かれている。参加者は思い思いの答えを付箋に記し、窓に貼っていくの

だが、それを読んだあるお父さんは「大号泣してしまいました」とのこと。付箋には「そこらなにがみえるの？」「お腹空いてない？」「あなたのことが知りたいな」などあたたかなコメントが寄せられていた。



7月20日(土) ☁ ☀

「みんな なかまよ」展では、谷川俊太郎の詩とちひろの絵による絵本『ひとりひとり』を題材にしたワークショップも行っている。「ひとりひとり……」から始まる谷川の詩に倣い、参加者もカー

ドに自分のことばを書き加えて、展示室に飾っていく。ウクライナの戦火から逃れてポーランドに在住している三人姉妹がこのワークショップに取り組んでくれた。長女のアンゲリナさんは「ひとりひとり ふるさとがあり／ひとりひとり 家族を持つ」とつぶった。

7月25日(木) ☀ ☁

今日からインドネシア・バンドゥンにて、2月開催の展覧会の巡回展として「絵本：日本の子どもの本の物語と美術の旅」が始まった。インドネシア語で翻訳出版もされている『窓ぎわのトットちゃん』の絵を含むちひろの作品のほか、人々に長く愛されている絵本12冊から30点の作品をちひろ美術館コレクションから紹介した。国境やことばを超えて絵本が人々を繋いでくれますように。*1

*1 共催：国際交流基金ジャカルタ日本文化センター、Yayasan Cerita Anak Indonesia(TaCita)、ちひろ美術館



新入館証

風

Vol.10

旬な出来事をピックアップしてお届けします

ちひろの代表作「わらびを持つ少女」や「秋の花と子どもたち」などに描かれた、野に咲く草花が息づき、来館者や子どもたちが触れ合うことのできる「共生の庭」は、「あれこれいのち」展の企画協力者の鷺谷いづみ氏の発案、協力の元、生物多様性の維持と安曇野の野の再生を身近に感じるための空間として誕生しました。



4月下旬、ナデシコ、キキョウ、フジバカマを植える鷺谷氏とスタッフ

昨年11月と今年の4月に、鷺谷氏が来館し、自身のガーデンで大切に育てた草花を、当館のスタッフとともに、美術館の中庭に、ひとつひとつ丁寧に植えていきました。

それから半年余り、季節の移ろいとともに「共生の庭」は、豊かな表情を見せています。

春の庭では、ワラビの新芽が顔を出し、そよ風に揺れていました。小鳥が種を運んできたのでしょうか。むらさき色の可憐なスミレが群生し、庭を美しく彩りました。ツバメが巣をつくり、雛たちの元気な声が春の庭に響きました。

梅雨に入ると蕾が風船のようにふくらみ、キキョウがつぎつぎと花開きました。

今夏の庭では、ナデシコやオミナエシの小さな花が咲いています。

これから秋にかけて、フジバカマやススキをはじめ、秋の七草が来館者を迎えてくれるでしょう。

この「共生の庭」が、今の日本から失われつつある草花や生き物に目を向け、自然との共生について思いを馳せるきっかけとなることを願っています。(船本裕子)



ナデシコ、オミナエシなどの草花が咲く8月初旬の「共生の庭」

安曇野ちひろ美術館 イベント予定 各イベントの予約・お問い合わせは、安曇野ちひろ美術館へ。

下記イベントおよび展覧会の会期は予告なく変更になる可能性があります。最新情報につきましては、公式サイトをご覧ください、お電話にてお問合せ下さい。

TEL.0261-62-0772 chihiro.jp   

〈展覧会関連イベント〉

● plaplax (近森基+小原藍) × 鷺谷いづみによる オープニングギャラリートーク

○日時：9月7日(土) 10:45~11:30
○参加費：無料(入館料別)
○定員：20名(先着) ○申し込み：不要
展覧会「あれこれいのち」の展覧会ディレクター plaplax (近森基+小原藍) と企画協力者の鷺谷いづみ(東京大学名誉教授)による、スペシャルなギャラリートークです。

● 鷺谷いづみ先生とげんごろう博士の特別実習授業 「あれこれいのち 水辺の調査隊 IN まつかわ」

共催：松川村図書館 協力：WWFジャパン
○日時：9月28日(土) 13:30~16:00
○講師：鷺谷いづみ、西原昇吾(中央大学保全生態研究室)、久保優(WWFジャパン)
○会場：安曇野ちひろ美術館(共生の庭)、松川村の水辺
○参加費：500円(入館料別) ○対象：小・中学生と保護者
○定員：30名 ○申し込み：要事前予約(公式サイト、TEL.にて)
鷺谷先生とげんごろう博士といっしょに、松川村の水辺を調査しよう！
どんな生きものに会えるかな？

● 鷺谷いづみ先生とげんごろう博士、WWFジャパン といっしょに考えよう！

「安曇野まつかわ村の野と水辺」
共催：松川村図書館 協力：WWFジャパン
○日時：9月29日(日) 13:30~15:30
○講師：鷺谷いづみ、西原昇吾、久保優、松本猛(ちひろ美術館常任顧問)
○会場：松川村・すずの音ホール
○参加費：大人1000円、18歳以下・高校生以下無料 ○定員：200名
○申し込み：要事前予約(公式サイト、TEL.にて)
鷺谷いづみによる講演と対話の集いを行います。
わたしたちが暮らす安曇野の草花や生きものたちに目を向けて、自然との共生について考えてみませんか？

〈会期中のイベント〉

● 親子で楽しむギャラリートัวร์

○日時：11月3日(日・祝) 11:00~12:00
○参加費：無料(入館料別)
○定員：親子10組 ○対象：小学生と保護者
○申し込み：要事前予約(公式サイト、TEL.にて)
開催中の展覧会「あれこれいのち」の作品鑑賞ツアーを親子でいっしょに楽しみましよう。



親子で楽しむギャラリートัวร์

● 長野県民感謝デー

○日時：12月1日(日) 10:00~17:00
日頃の感謝を込めて、長野県にお住まいの方は、入館が無料になります。※受付でご住所のわかるものをご提示ください。
今年の閉館最終日、ぜひ、ご来館ください。

● おとなりの国の絵本と文化を楽しもう！

1. 絵本の読み聞かせ

共催：松川村図書館
○日時：10月12日(土) 14:00~15:00
○場所：安曇野ちひろ美術館
○参加費：無料(入館料別) 定員：20名
○申し込み：要申し込み(公式サイト、TEL.にて)
※当日受付可(定員になり次第終了)

○講師：崔寧純(チェ・ヨンスン、長野県在住 韓国語・韓国料理講師)
KBBY(国際児童図書評議会韓国支部)より寄贈された選りすぐりの韓国の絵本から、読み聞かせ(韓国語と日本語)と手遊びを楽しみましょう！
崔さんによる韓国の文化の紹介や、韓服(チマチョゴリ)体験もできます。

2. 韓国料理体験

共催：松川村図書館
○日時：10月19日(土) 10:00~12:00
○場所：松川村・すずの音ホール 調理室
○参加費：実費 ○定員：10名
○申し込み：要申し込み(松川村図書館 TEL. 0261-62-0450 ※火曜日休館)

○講師：崔寧純(チェ・ヨンスン)
おいしくて健康にもよい韓国の家庭料理を、崔さんから教えていただけます。調理の合間に韓国の生活のようすなども伺います。



いわさきちひろ 料理をする母親と女の子 1960年代後半

● ギャラリートーク

○日時：9月21日(土)・10月19日(土)・11月16日(土) 14:00~14:30
○参加費：無料(入館料別) ○定員：20名(先着)
○申し込み：不要
開催中の展覧会「あれこれいのち」の見どころを学芸員がわかりやすく解説します。

● 絵本のじかん

日時：9月14日(土)、10月5日(土)、11月2日(土) 11:30~12:00
参加費：無料(入館料別) 定員：20名(先着) 申し込み：不要

● ちいさなおはなしの会 at 絵本カフェ

日時：10月14日(月・祝) 11:00~
参加費：無料(入館料別) 定員：20名(先着) 申し込み：不要

● 開館情報

2024年12月2日(月)~2025年2月末日は冬期休館となります。

CONTENTS <展示紹介>いわさきちひろ ぼつご50ねん こどものみなさまへ あれこれいのち…^{②③} / <展示紹介>ちひろ美術館コレクション 野のいのち / <活動報告>塩瀬隆久氏による中学生ボランティア研修…^④ / ひとことふたこと みこと / 美術館日記 / 風…^⑤

美術館だより NO.115 発行2024年8月26日